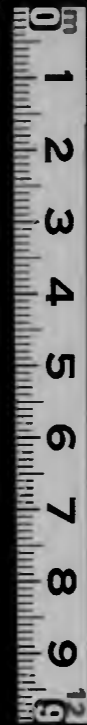
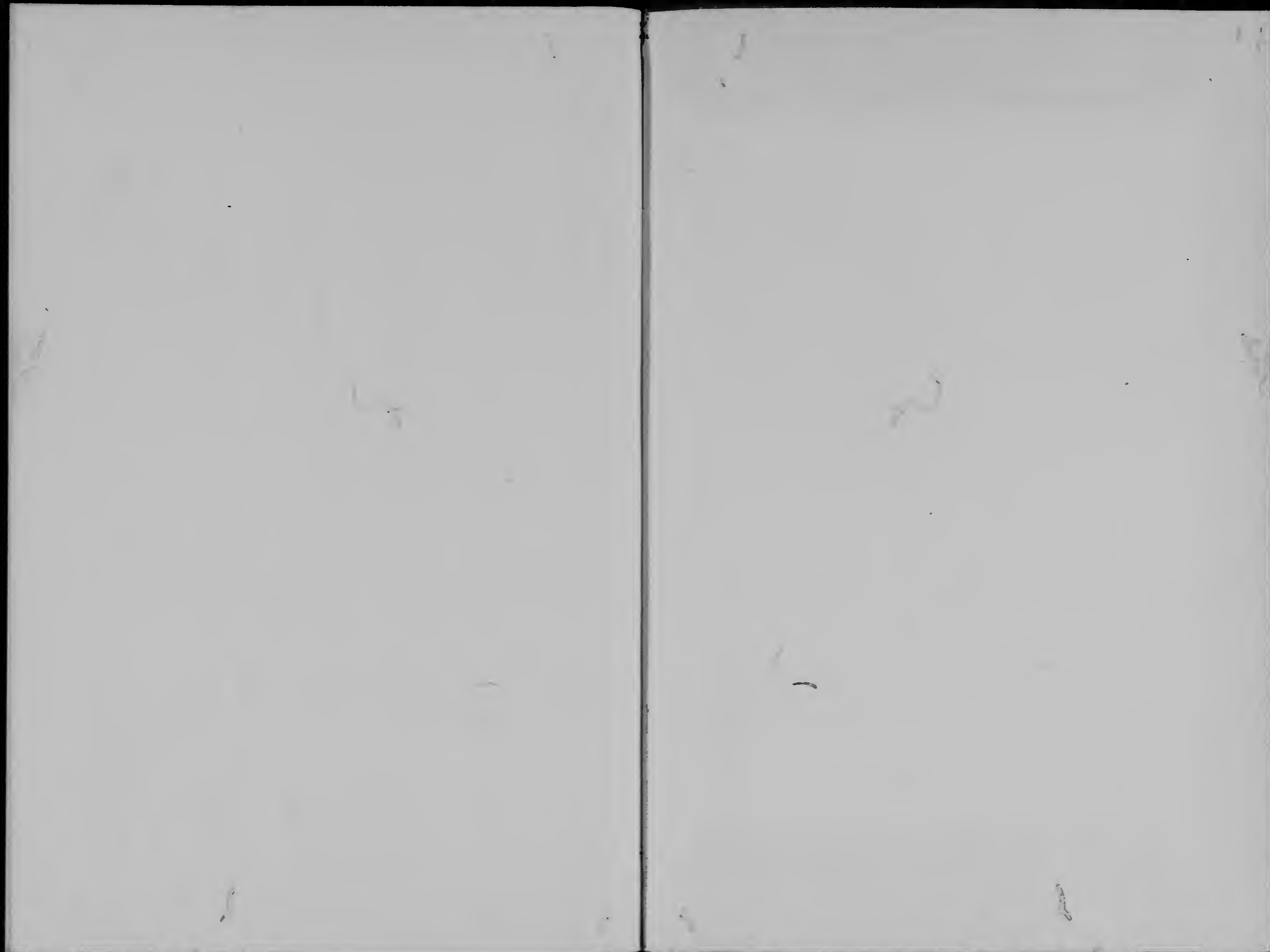


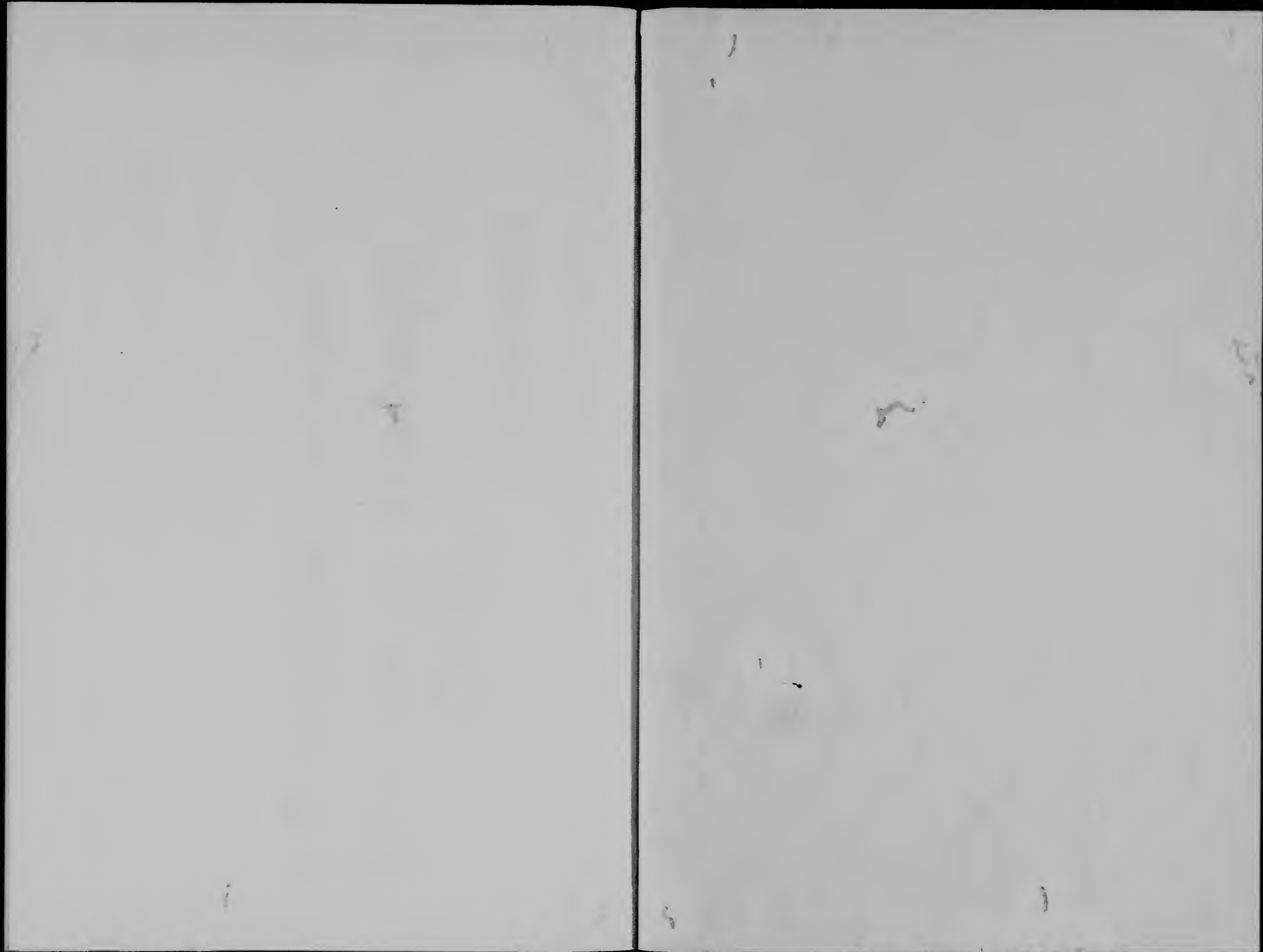
新清卷之番
一



内閣文庫	
番號	和 32569
冊數	394 (211)
函號	152 121

内閣文庫	
架	三二五九
冊	三九二
號	三二五九
類	和書





寛永二十二年八月八日

新中書玉忠八左衛門祖

三官後 長初六之助忠晴

後三官後

慶安元_子年六月十四日新中書玉忠八左衛門祖

長初六之助忠晴
三官後
長初六之助忠晴

寛永二十_未年八月廿

新津藩玉史八巻組

本番本多世系守組

平兵衛助

寛永二十_未年八月分

新沖書玉出公彦組

大沖書松平外託組

大久保友彦

寛永二十^未年八月八日

新沔番玉虫八右衛門組

補尾松若清幸政次男

大沔番孫中守組

四百俵

補尾勘若清幸綱

新沔番組頭

沙加恩二百俵凡六百俵

寛文八^申年八月十二日死今六案

寛永二十二年八月八日

新井藩玉虫倉組

四石 小林平三郎正玄

小林勝之助正忠
大津守根六郎守組
後五石

兼寛元元年 月 日父の遺跡
又百石と修了是迄の四石此うち
二百石中惣五石正平(分)一石ハ
収らぬ

明暦二申年四月十日死五十三歳

寛永二十未年八月八日

駒井孫四郎勝重勘順

本州書左保右系亮組

新洲書王史八套組

言儀

駒井左衛門勝貞

後孫四郎

慶安元子年六月廿日位新洲書組駒井

右京組

寛永二十一年分台

新沖書玉虫公雀組

中務右衛門督慶利總領

大沖書局川出守組

二右衛門 中務長左衛門盛明

後二右衛門

慶安元年五月 日跡自二右衛門

是迄の二右衛門收り

慶安三年 年籍入伊丹順秋組

延宝元年十月廿日致仕

延宝六年八月廿日死六十一歳

寛永二十年^未八月八日

加藤清助吉正也取

小十人保三郎吉清組

新洲番玉虫八右衛門組

二百俵 加藤八右衛門吉之

後二百五十俵

之右又十俵正加(清之凡二百五十俵)

寛文三年閏月沙汰し七日光小太郎

寛文四年^辰年六月十二日死六十歳

寛永二十一年八月分

跡部茂通の正次男

小十人吉田左衛門組

新井藩五虫八左衛門組

三右衛門

跡部三右衛門利勝

慶安元_子年六月十四日_組新井藩五右衛門_組

正保四年十二月廿日

新沖書玉忠八左衛門組

小十之組改称忠左衛門正勝惣領
言依 新後八左衛門貞春
後百十俵

正后藤兼二百俵と給与

万治二年十二月廿六日百十俵と加

給八九二百十俵

寛文二年二月三日御旨 拜入瀧川長門守
組

貞享元子年 月 日 藤目二百俵

是迄の二百十俵返一献家

貞享元子年二月十六日死七十三歳

慶安元子年六月十四日

新沖耆北條新菰組

三喜

植村教馬 泰義

植村幸右衛門 政泰 忍

大沖 甚中 根大 濁守 組

改 植在 馬 中 助

延宝三子年九月十六日新沖耆組

寛文三子年四月日光の湯 佐之 随入

同年十二月廿一日湯加恩二百俵 凡之四百石

天和二成年四月廿二日並湯加恩三百俵

凡八百石

同年九月十日相之間沖耆

天和三年四月廿二日
元禄九年十二月十日
元禄九年四月十日

慶安元子年六月十日

新沔善北條新茲組

田村辰兵衛
大津友植村常力組
二百俵 田村太郎忠清忠亮
後百俵 改十俵
二百俵

万治二年十二月廿五日
凡二百俵

寛文八年 月 日
二百俵のうち五十俵と
是迄の二百俵をうへ奉る

元禄三年四月
入仙石園守組

元源九_子年六月十日死

慶安元_子年六月十四日

新洲出北條新茲組

伊東基之丞清祐次男
大洲出保科輝正忠組
二百俵 伊東基之丞清祐友

明曆三_子年四月廿一日死

慶安元子年六月十四日

赤山市常陸守治部

大所為保科澤三忠組

新計書中根次重俊組

二百俵 赤山佐右衛門盛勝

後二百俵

二百石

万治二亥年十二月廿六日又十俵と

加へ給之凡二百又十俵

寛文四辰年十二月十日同日二百石

是までの二百俵ハ返一誠家

延宝五己年三月十日辨入赤保右京亮組

元禄又申年五月廿六日死八十三歳

慶安元_子年六月十四日

新井藩北條新彦組

窪田茂九郎 忠成 忠成 忠成

小十人細井九次 在彦組

二百俵 窪田助左衛門 盛清

後二百俵

万治二_子年十二月廿六日 又十俵と加へ給ひ

凡二百俵

寛文三_子年四月日光の湯供不随ひ

延宝元_子年 榊入戸田備後守組

貞享元_子年七月十九日 致仕

貞享四_子年十月廿二日 死

慶安元子年六月十四日

川勝勘左衛門廣和男

小十人三宅信齋の廻

新市番北條新左衛門

之旨 川勝友三郎廣恒

後二百五俵

之旨形に慶安元二百俵と送り

慶安四年九月廿九日

長松君に被為附

同年の如く御方の目付と申す

同年十二月廿五日法加恩と送りいんげん

是より次方小恩加へら送て后小二百車と云ふ

五十俵小送り

延宝六年十二月三日甲府の沖城まで
引取り

延宝六年七月二日死

慶安二年十二月廿八日

新洲番中根次重隆組 言儀 廣戸後左衛門心武

沖破損其の廣戸年七月二日二男

後二百十俵

兼意元 辰年十二月十八日廣戸二百
俵と結言

万治二年十二月廿六日五十俵と
加(結言凡二百十俵是より先
明暦二年十二月廿六日宿直又とせ
る所也)とよこれ替免なる目ハとて
黄金 三 板と結言

寛文九年十月十八日

あつた密書上りて此勢然る事

以て其令三と給ふ

貞享元年八月廿六日沖書物奉行

元禄八年四月十九日老禪入

堀河内守組

宝永二年四月廿日死八十歳

万治元戌年七月十九日

富永三左衛門守官忠辰

大津波子本主水忠証

新津書渡遠中在遠組 署名 富永三左衛門守官忠辰

元禄六年十一月廿一日禪入彦坂寺夜守組

元禄十一年四月廿六日死七十九歳

万治元^戌年七月十九日

松平信六郎重昌様

大洲藩本多豊前守様

新洲藩渡邊守右衛門

三右衛門

松平市之丞利正

後三右衛門

政信様

下野守
石通掃部

万治二^亥年十二月廿六日又十後之加

治元九二右衛門

万治三^子年十二月十日

新洲藩小納戸

同年同月廿八日布衣着之加

寛文元^丑年十二月四日曾洲加恩二右衛門

凡四百五十俵

寛文三年四月日光御供儀隨ハ

寛文五年十二月十日御目四百五十石

是迄の四百五十俵ハ返一ナキ

寛文七年十二月廿六日沙加恩二百俵

凡六百五十石

延宝八年 月 日一統免_テ包_テ

奉合小列寸

同年七月廿九日

沖先代小倉公の号少くも次少くも

沙加恩二百石凡千石

天和元年四月十六日東叡山

嚴有廟と造せらるる在り是れ小

よりして叙身作らるる下野也と

政免

同年五月廿六日

嚴有廟と造らるる沖用小倉

よりして黄令_三阿波_四羽_五羽_六殿_七と

同年八月廿日沖先代

天和二年四月廿一日並沙加恩二百石

凡千六百五十石

同年八月九日新沖書院

元禄十一年三月十九日率七十石

万治元^戊年七月十九日

同官^六市^正勝^忠殿

大^新書^所誠^中守^組

新^沖藩^藩渡^邊守^右衛^門組

二^百俵

改^八更

六^百石

六^百石

万治二^亥年十二月廿六日^二百^十俵と加^一添^入

九^二百^十俵

寛文三^卯年四月日光の^二涉^供小^隨の

寛文十^壬年 月 日跡^同六^百石是^迄の

二^百俵^六返^一寺^家

天和二^戌年八月九日^二沖^先炮^取

同日沙加恩二百石凡八百石許御茶
石さきて祖父之命正考大坂の戦小
討死し其子年比の考少く次
子川で沙洗地院と命せし御茶の
沖自の作とある いひまてハ大坂の役小切也
とありあ録の事不詳也

同年十二月廿七日布衣着と死す也
貞享四年三月廿八日辞命合ふ列す
元禄六年六月九日死七十一歳

万治元^戌年七月十九日

坂高傳又高傳貞次之男

大洲藩高傳本至水正組

新洲藩渡邊正右衛門 二言後 坂高傳八郎胤方

後二言十後

正右衛門又十後と加へり凡二百五十後
寛文三年四月日光の沙とも不随ひ

元禄^申年七月十八日辞命後堂伊豫守組

元禄十二年六月廿八日死七十五歳

万治元^戌年七月十九日

依田信忠

大洲安久保在平亮組

新洲善渡邊在安組

二言石 依田安久保在平亮組

後二百六十石

万治二^亥年十二月廿六日午後七加(石)

九二百六十石

寛文三^辛年四月日光寺供小願

より名年月日さうなり、次麻布にて
四百八十坪の地と給ふ

元禄三^辛年十二月十八日津草翁自死

元禄六^甲年九月四日死

寛文元^丑年十月十二日

神谷小左衛門三郎忠順

不詳故重多を承る也

新沖藩青山後右衛門組 二言後 神谷金七郎並好

後言平後

同年十二月十三日父失知月と記す所の

料同一と記すハ送源と記す

之右平後之加治ノ九二百平後

寛文三^卯年四月日光の寺徳小随ノ

延宝四^辰年四月四日死

寛文元^丑年十月十二日

檀村三郎重盛正相慈願

大市書久保右京亮組

新洲書青山殿右衛門組 二後 檀村松右衛門正壽

後三郎重信
六百字石

之右又十俵と加へ給ひ凡二百五十俵
寛文三年四月日光の御供進之
寛文十三年 月 日跡目六百三十石
是迎の二百五十俵ハ返一奉取

解入松浦

内後允組

天和三年甲午武助正登之養子
 小せん事と改松浦内蔵元小教書
 と出せしに事と内蔵元正年小
 入子取うち正壽
 同年六月十日六十歳小て死
 正壽六十歳とあり末期の事小川
 小川とて二百二十石と収らばて
 家小くしと

寛文元^五年十月十二日

坂小左衛門重安無願

坂小左衛門重安無願

新洲番青少左衛門組 言若 坂小左衛門重治

改小左衛門

右衛門佐

大日記

寛文二^三年三月七日小納戸

同年十二月廿八日布衣着を脱きて

寛文三年四月日光の湯供

随(ハ)母云員令村と伝ふ

寛文八^申年十二月廿七日湯加敷二百俵

凡二百石

延宝五年十月五日御前
さきこて誠申則重の御腰の物
と治り

延宝八年八月十四日一統虎
奇合系列

同年七月十九日

御先代のうち四芳れおとなるとと御加
又百石凡千二石

同年八月三日新恩の沙書下り
治り常陸の國にありと
天和元年四月十六日

嚴有廟を造りせらふを以て
叙爵仰出さる大滞り候となす

同年五月十二日大目付

同年同月廿六日

嚴有廟を造りせらるに當り
英令^三時後^三羽織と治り

同年六月廿七日松平越後守光長
この^二國を棄り^三ハ誠後の^三高田
使りてきさりの作とさる七月
十二日沙服英令^三時後^三羽織と
治り九月十二日治り^三十二日洋瑞を
同年十月十九日天主教改之兼

庭子作と云ふ

同年十月廿九日比谷部のうち
あゝ居郎の比と云ふ

天和二年二月晦日与力と云同公
三十人うへ小日向の山を爰と云ふ
矣五人三人と領考あり

天和二年四月廿一日並沙加急あり
九千二百石

同年九月七日新恩の御書中し
院と上野の國郷多郡と田沢村
山田郡境野村東合井村めく
りて

同年十月十六日寺社奉行沙加急七千
九百九十八石九千石

同年十一月十八日沙加急の事と謝し
なりと賞合板御小袖と執事

同年十二月十日沙加急の御書出
しと云ふ

天和三年正月廿九日光御門主に御用と
うけある御書作と云ふ

同年三月廿九日光(沙加急時後
又羽織と云ふ)四月廿四日
抄消す

貞享四年四月十四日久保加賀書

忠朝朝臣の郵小なるを以て惣方
御旨小意せず沙役と棄集は逼塞
をへしと作出る也

元禄二年六月四日加賀守忠朝
朝臣の郵小なるを以て逼塞と免
され沙加地と棄集又斥郵
とも棄集は小善後か入る家ひひ
作出る也仙石同備守組と
同年七月十日南本所也
七百坪の地と
元禄三年四月十七日
免す也

同年五月又日考合の席めて
拙者もへしと作出る也
元禄六年七月廿七日死六十四歳

寛文七^未年二月十八日

高木藩書架懸願

元方印紙

新津藩書出度懸願 二言 高木六兵衛某

寛文八^申年十二月廿五日午後三時

迄分凡二百五十後

寛文九^未年十二月十八日午後三時

宿直上々此誓先可也ハトテ黄令^三板

之給子

元禄十四^己年二月十八日流罷

同日評定所 申百子凡七^三堂系万^三席

八海人星野八登のう子めて徳子の
事明白なるに三浦十高を流す方
中合忠子に世話せしむ大徳をか
うせし事名を隠れいそつとあつとて
父子ともに流刑ふ處せらるるは
安後執後守信管傳へて家に入て
二百五十俵を収らる

寛文七^未年二月十八日

山角市信の孫重三男

大沖安松外記組

新沖書青山後右邊組

言俵

山角後邊信之明

後二百五十俵

改後六市

三百石

寛文八^申年十二月廿六日五十俵を加へ

後八^元二百五十俵

貞享元^子年十二月 日分給二百石

是迄の二百五十俵は返し替家

元禄七^戌年

同六月九日新沖書組取

同年十二月廿三日沙加恩二百俵元

八百石

元禄十一年七月三日鷹取四百石
此地小なる一多し中継の内めて
治り

宝永二年三月四日源入松平重政組
享保三年八月十七日死七十九歳

寛文七^未年二月十八日

春田重政師之重政子

春田重政師之本主水田組

新洲番青山後藤組 二石 春田重政師之忠

後言字名曰空依

寛文八申年十二月廿五日後

加入後八九二百石

貞享四年六月九日新洲番組改

同年十二月十日沙加恩二百石九石

石

元禄九年四月廿日御用付

同年七月十日小石川御殿在り

元禄十一寅年三月廿六日小菅後小
 入らば是乃丹波守組久松所目付
いづれに有る者とのむらひしる
うらふ小菅川津屋等約小殿
 正徳三己年六月十四日死

寛文七^未年二月十八日

西山十有馬昌時三男

大津波高徳後守組

新津番青山後守組 二言後 馬場新右衛門昌重

後二言十後

同年十二月廿六日又十後と加(後)八九

二言十後

貞享四年八月十日越後國津代官

宝永三^戌年七月十日死六十八歳

延宝元^丑年十二月廿一日

天野孫左衛門重隆

大洲郡平多紀若守組

新洲藩神尾市左衛門組

言後 天野傳四郎富重

後言守後

延宝二^寅年十二月十八日二十後と加へ

延宝二^寅年十二月十八日二十後

延宝四^辰年十一月廿六日御小納戸

同年十二月廿六日沙加屋二百後九四

二十後

同日布衣着と免す

延宝八^申年二月十四日一統免す

考合ふ列

天和三年八月廿二日十人院

元禄九年九月十日沙目村

元禄十一年六月廿八日沙加恩二百

石是迫の鷹取四百二十俵も定地也

なりし流し武列首降那下高野村

倉松村常陸の玉真登那申上野村

向上野村石田村同玉登那申那村

下古勝村ありし流し凡七百二十石

元禄十二年八月十日火附盗賊

政と兼つし作と兼つ

同年十二月二日火の元政の事

考つるとて莫令^又時後^三羽威と

流し

元禄十二年七月廿八日加役

免さる是迫考つるとて時後^三

と流し

元禄十二年九月十日駿府町を以

て役料二百俵と流し

同年十月廿八日堺を以て役料

七百俵と流し

同日大坂町を以て役料の課せ与力

六邊同公早人全場を以ての五院

考つるとして作出さる

元禄十六^未年五月十二日涉服
時被^四羽織^之信了

宝永二^酉年九月十日^塚之^立女^三可

江府小若^一十月十日^沼滑^一

御太刀馬代^子綱^之執^了

宝永二^酉年十二月十九日^輝奇^合小

列^了

宝永五^子年十一月廿三日^致仕

正徳五^未年九月十日^髪を^刺了^て

宗用^と云

享保十三^申年三月廿八日^死六十八^集

延宝元^丑年十二月廿一日

同宮七^而云^信吉^俊二^男

大^洲吉^松平^継殿^次組

新^洲吉^松平^継殿^次組

二^言後^間宮^次在^信盛^俊

延宝二^寅年十二月十八日^又十^信之^加

信^一八^凡二^言又^十信

元禄五^申年十月廿三日^沖弓^矢陰^其信

元禄十三^辰年十二月廿二日^死

延宝七年八月廿六日

後部基より保好忠辰

元方沖知戸

新沖番村尾市元後組

二層 服部忠四郎保道

後二百五十俵

後改源基清

二百五十俵

同年十二月十九日六十俵を加へ給ふ
二百五十俵

元禄四年十二月五日跡目二百五十俵
是迄の二百五十俵はうえへ在り

元禄五_中年六月十日沖合を以

元禄七_戌年八月十三日病ふりて

取のふとく元組新津波中根平市
組へ歸書

延宝七^未年八月廿六日

新津藩村尾市登組

天野清常信二男
大津波松平経辰組
二言後 天野重登(正春)
後二言後

同年十二月十九日入十俵と加(り)

凡二百俵

元禄四^未年十月廿日御膳奉行

元禄五^申年十一月 日帯に公を
尽して物方として黄令^二校^一と
是よりと年毎に加(り)を

辨入

元祿十四^己年八月廿五日
組

延宝七^未年八月十六日

版河屋次郎盛政三男

大押者極村玄仇子組

新市番神尾市虎造組
三言後 版河清泰造盛令

後言卒後

同年十二月十九日卒後之加へ後人凡

二百卒後

天和二^戌年七月十六日津原守以

天和三^亥年八月十二日元組新市番
神尾市倉組(改番)

延宝七^未年八月廿六日

小寺傳次郎政重二男

小寺田中源十郎也

新井藩新尾市左衛門組

百俵十口
後二百俵

小寺左衛門政友

同年十二月十九日沙加恩百俵乞返の

十日も鷹取小寺一法子凡二百俵

元禄^申又^申年七月十六日拜入

組

元禄十五年七月十八日元組新井藩

申根平十郎組へ帰着

延宝八申年八月廿六日

任智化寺貞則甚子

河腰物甚子

新洲青神尾市在造組

言依 任智平八師貞敷

後二百五十依
後七百零五

後任智守

同年十二月廿六日卒後之加治入凡二百五十依

元禄六申年十二月十二日同日七百三十二石是

近の二百五十依ハウケノ一草取

元禄六酉年十月十日道奉引

元禄十七年二月十五日河船

同年十二月廿七日布衣着と然り也

元禄十六年七月十二日河船

宝永元^甲年七月十二日本所筋
大水あきハシテ沙田と命をくだり
宝永二^乙年三月十二日利根川
荒川の防堤修築の沙田と惣免
て芳取りとて莫合^十と治家
同年十二月翌日実東の川の堤と
築直して工功少なりと治家
莫合^三時後^三羽藏と治家
宝永七^庚年六月三日洪池検分沙
田と命をくだり八月廿六日日夜
洪池検分と惣免と芳取りとて
時後^三と治家

正徳元^卯年三月十日弓馬上流
所用と命をくだり四月廿六日御
沙流又月七日馬御沙流ありて
同月十日弓馬沙田と惣免と芳取
り時後^三と治家
正徳二^辰年十月二日沙田善後を以
同年十二月七日叙爵作也と惣免
と惣免
正徳三^巳年十二月廿日沙田加恩二百石
凡千三十二石
正徳四^午年正月廿八日沙田惣免を以
同年七月十八日奉与十月

文昭廟三回の御法會御用と命をま

同年十一月十四日未^未の二月

津光院君七回の御追福御用と命

と命をま

同年十二月廿六日合渡吹越し

御用と命をま

享保元^申年二月七日道中を以

て恙^恙し^し作と命をま

享保二^丙年三月十九日京越(御用

としてま^まするの作^作を以て四月九日

涉^涉帳^帳黄金^金及^及時^時後^後三^三羽^羽藏^藏と命をま七月

朔日^{朔日}返^返て洋^洋備^備す

同年七月廿五日大和川防院修築

の御用と命をま御^御手^手作^作と命をま

享保三^丙年七月廿二日未^未十月

文昭廟七回の御追福御用と命をま

享保四^丁年十月廿六日葛西の新

田水路と命をま^三黄金^金及^及時^時後^後三^三

羽^羽藏^藏と命をま

享保五^子年八月廿七日未^未八月

月^月廿^廿と命をま^三御^御手^手作^作と命をま

享保六^丑年二月十八日老^老祥^祥寺^寺合^合祭

列^列寸^寸是^是追^追年^年法^法の^の芳^芳が^が祈^祈り^りの^の御^御手^手作^作

あ^あり^りて^て黄^黄金^金及^及時^時後^後三^三と命をま

享保八年八月廿日率七十二家

